

佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信

No. 12 (平成28年7月11日発行)

SGH「地域フィールドワーク」

2016年6月16日(木) 1~7限、高校1年生全員で、貸し切りバスを使用した「**地域フィールドワーク**」を実施しました。今後、地域の課題をテーマにした課題研究を実施するにあたり、実際にフィールドワークを体験するとともに、本校が目指す**グローバルリーダー**のロールモデル(お手本)とする**田中正造**について、「もし、田中正造が現代に生きていたら」という視点から考えました。



佐野市郷土博物館での高際先生のお話



渡良瀬遊水地での青木先生のお話



地元企業①「吉澤石灰工業」



地元企業②「吉川油脂」

「地域フィールドワーク」の訪問先

- 佐野市郷土博物館 → 田中正造研究の第一人者、たかぎわすみお高際澄雄先生のお話
「**田中正造が現代に生きていたら何をしようか**」
- 持続可能な社会の実現に貢献している地元企業 → 企業理念説明、工場見学、経営者との質疑応答
 - ①1・3組: **吉川油脂** (佐野市飛駒町): 油脂の回収・リサイクル等
 - ②2・4組: **吉澤石灰工業** (佐野市葛生町): 環境を守る製品開発等
- 渡良瀬遊水地 → 足尾鉍毒事件の解決のために造られた**遊水地の現在と未来**
 - ①作新学院女子短期大学部教授 あおきあきひこ青木章彦先生のお話
 - ②遊水池ガイドによる「遊水池見学」



○佐野市郷土博物館：高際先生の講話「田中正造が現代に生きていたら何をするだろうか」



田中正造が現代に生きていたら？

私の疑問

- (1) 谷中村復活を唱えていた正造は渡良瀬遊水地をどう見るか？
- (2) 足尾の森林復活を唱えていた正造は多量の鉱滓の残存をどうするか？
- (3) 現代の科学技術の進歩をどう評価するか？とくに情報科学を？

「田中正造のことは小学生の頃から学んでいますが、学べば学ぶほど、その偉大さを実感します。高校生になった今、思うことは、私も田中正造のように地域から社会へ貢献できるような人になりたい、ということです。諦めずに闘う気持ちが大切であることを学びました。」(1-1 山本里紗)

「田中正造の勇気ある行動が今の時代の人々にも影響を与えていることがわかりました。また、社会科学の本質に従い、自らが為すべきことを明らかにしていったということに感心しました。」(1-4 小曾根歩斗)

「田中正造が現代に生きていたら、どう見るかを考えることが私たちの課題であり、『真の文明』について、真剣に考えなければならぬと思いました。」(1-2 野原悠以)

○吉川油脂（写真上）、吉澤石灰工業（写真下）：高久先生による事前学習 6 / 2 も行いました。



<吉川油脂>

「健常者と障害者が共に仕事をする。それを実現している会社でした。また、廃油や油のリサイクルの仕方など、様々なことに配慮が行き届いていて、とても感動しました。社長さんが生き生きとした表情で、熱いまなざしで説明をしてくださったのが印象的でした。」(1-1 三枝詩穂里)

「家庭での食用油のリサイクル率はわずか15%であることと、再生された油は世界にも輸出していることを知り、驚きました。また、社長さんのお話の中に「やらされてやるものに何の価値もない。」という言葉に、とても共感しました。」(1-3 角田絵梨香)



<吉澤石灰工業>

「日本のドロマイトの90%がここで生産されていることを初めて知りました。ドロマイトは汚染された土壌にも利用されており、地球規模の環境問題の解決にも役立つのではないかと思います。」(1-4 遠藤舞)

○渡良瀬遊水地：赤堀先生による事前学習 6 / 9（写真上）、遊水池ガイドによる見学（写真下）



「今まで、自然は人が踏みいかない方が良いと思っていましたが、たくさんの人によって守られている自然もある、ということを知りました。また、渡良瀬遊水地には、私たちには計り知れないたくさんの物語があることを知り、感動しました。」(1-3 関涼花)



「渡良瀬遊水地が「ラムサール条約湿地」に登録されていることを知り、驚くとともに誇りに思いました。また、外来種がもたらす影響が懸念されることから、湿地にもグローバルな課題があることを感じました。」(1-2 小和田龍之介)

「遊水地が今に至るまでの軌跡を学ぶことができました。また、遊水地の保全活動が人々の自主的な活動によって行われていることを知り、多くの人々に愛されていることを感じました。」(1-4 町田裕汰)